

- 国語**→話したり書いたりする学習は、具体的な型や文章のモデルを提示することで、安心して話したり書いたりする児童が増えた。しかし、話の中心やキーワードをおさえて読んだり聞いたりすることには課題が残る。宿題は取り組んでいるが、漢字の定着については、個人差が大きい。
- 社会**→導入を工夫し、児童の興味を引くことができるように教員の経験や児童の経験したことがある事例を多く用いて学習に臨んだことで学習への意欲が高まった。しかし、全体を通して資料の読み取り過程で必要な情報を選別する力が弱い。
- 算数**→基礎基本となる知識は定着している。複線型の話し合い活動を取り入れたことで、自分の考えに自信をもったり、深めたりすることができるようになってきている。既習を自分で振り返り、ほかの学習で生かしたりほかの問題に活用したりするということにはまだまだ課題が見られる。今後も既習と結び付けながら、学習を進めていくことを大切にしたいと考える。
- 理科**→観察や実験などの関心は高い。実験で分かったことはよく書けている。しかし、実験で検証したいことと身近な事象や課題が自分ごととして捉えられていない。身近な生活や出来事と関連付けながら観察・実験を行い、結果を実生活へとつなげていくことが課題である。

I 大田区学習効果測定の調査結果と概要

- △：正答率の平均が目標値を上回った教科・観点
- ≡：正答率の平均が目標値と同程度の教科・観点
- ▼：正答率の平均が目標値を下回った教科・観点

| 教科  | 国語    |          | 社会    |          | 算数    |          | 理科    |          |
|-----|-------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|----------|
| 全体  | △     |          | ≡     |          | ≡     |          | ≡     |          |
| 観点別 | △     | ≡        | ≡     | △        | ≡     | △        | ≡     | ≡        |
|     | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 |

1 教科全体

国語の全体の正答率は、目標値を5ポイント上回った。一方、社会・算数・理科の全体の正答率は、目標値と同程度となった。

2 観点別

「知識・技能」の正答率は、国語は目標値を5ポイント上回ったが、社会・算数・理科は、目標値と同程度となった。また「思考・判断・表現」の正答率は、社会が8ポイント、算数が5ポイント目標値を上回ったが、国語は目標値と同程度の結果となった。理科については目標値を2ポイント下回る結果となった。

## Ⅱ 教科ごとの授業改善プラン

### 1 国語・社会・算数・理科

#### 【国語】

国語は、ほとんどの領域で目標値を上回っていた。しかし、「書くこと」については目標値を2.9ポイント下回っていた。学習した漢字を正しく書き、定着させる必要がある。普段から習った漢字を使って文章を書き、間違えたときにはそのままにせず書き直しながら、正しい漢字を書くことができるよう指導していく。また、「話すこと・聞くこと」は目標値とほぼ変わらない結果となった。伝えたいことの中心を捉えて聞き、意見を出し合うことができるよう、国語に限らず様々な教科で話し合い活動を取り入れていく。

#### 【社会】

社会科は、思考・判断・表現の観点で目標値を8ポイント上回っているが、知識・技能の観点は目標値と同程度という結果になった。基礎・基本となる学習内容が身に付くように、授業の導入部分を工夫して児童の興味・関心を高め、指導方法を工夫していく必要がある。また、知識・技能分野の向上を図るため、資料を読み取る際に問われていることを正しく理解し、資料の中で着目すべき点を判断し、必要なことを読み取っていく学習を繰り返し指導していく必要がある。

#### 【算数】

領域別にみると、「図形」の正答率は目標値を約8ポイント上回っている。特に、円と球・三角形に関する問題では、目標値を8ポイント上回り、正答率が90%を超える結果となっている。また、「数と計算」では、全体としては目標値と同程度であるが、思考力が求められる□を使った式の問題は、正答率が目標値を12ポイントも上回る結果となった。一方で、繰り上がりが3回ある足し算が他の問題に比べて正答率が低く、課題がみられた。今後は、計算の基礎的な問題に取り組む機会を増やし、知識・技能のさらなる向上を図るとともに、話し合い活動を継続して取り入れ、自分の考えを深める場面を大切にしていく。

#### 【理科】

前年度と比べてみると、思考・判断・表現については4ポイント上がり、知識・技能は4ポイント下がった。いずれも、目標値には届いておらず教科全体として課題が残る結果となった。教科全体としてレベルアップしていくために、理科的用語を正確に覚え、実験や観察の際には、その用語を使い記述させる力を身に付けさせたい。また、自分なりの根拠をもち予想を立て、実験・観察を通して得られた結果から「○○だから△△の結果となった。だから～と考える。」というように、事象と関連付けながら考察を記せるようにしていく。

## 2 音楽・図工・体育

|    | 児童の実態                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | おおむね良好：○<br>改善が必要：△           | 授業改善プラン                                                                                                                                                                                          |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 音楽 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●知識・技能 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した音楽の記号を生かして表現できる。</li> <li>・強弱等の要素のよさやおもしろさを理解して表現できている児童と努力を要している児童がいる。</li> </ul> </li> <li>●思考・判断・表現 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した要素を駆使して工夫のある表現をしようとする児童と、努力を要する児童がいる。</li> </ul> </li> <li>●主体的に学習に取り組む態度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの児童がリコーダーや歌唱の練習に積極的に取り組んでいる。</li> <li>・学習の見通しをもち、自身の学習結果を振り返り次の学習に生かすことができる児童と、努力を要する児童がいる。</li> </ul> </li> </ul> | ○<br>△<br><br>△<br><br>○<br>△ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・効果を実感できる教材の提示や、伝え合いの場をもって考えを共有できるようにする。</li> <li>・友だちの考えに触れる場をもち、参考にできるようにする。</li> <li>・ふりかえりの際に、毎時間のめあてにたちかえり考えることができるよう助言する。</li> </ul>                |
| 図工 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●知識・技能 <ul style="list-style-type: none"> <li>・題材に対して、つくり方を理解し、ていねいに作品をつくらうとしている。</li> </ul> </li> <li>●思考・判断・表現 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いや考えを言葉で表現し、伝えることが苦手な児童が多い。</li> <li>・友人の作品のよさを見付けられる児童は多いが、それを言葉で表現することが苦手な児童が多い。</li> </ul> </li> <li>●主体的に学習に取り組む態度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・色や形に関心をもち、粘り強く取り組む児童が多い。</li> </ul> </li> </ul>                                                                  | ○<br><br>△<br><br><br>○       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の発想が広がるような題材の準備や導入の仕方を研究し実践する。</li> <li>・作品のめあてを意識させ、それにあった振り返りや鑑賞ができるように指導する。また、鑑賞に適した語彙を提示する。</li> <li>・児童が興味をもち、意欲的に取り組み、深く追究できる題材を用意する。</li> </ul> |
| 体育 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●知識・技能 <ul style="list-style-type: none"> <li>・規則を守り、安全に気を付けながら、友達と協力して運動に取り組むことができる。</li> <li>・苦手意識をもっているものに対して、消極的な児童が多い。</li> </ul> </li> <li>●思考・判断・表現 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の課題を的確に把握している児童が少ない。そのため、技能向上のための場の選択や、練習方法などを自ら見いだすことが難しい児童がいる。</li> </ul> </li> <li>●主体的に学習に取り組む態度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と協力して、安全に準備や片付けを行えた。</li> <li>・友達の運動する様子をみて、良いところを積極的に伝え合う姿がみられた。</li> </ul> </li> </ul> | ○<br><br>△<br><br>△<br><br>○  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手意識をもつ児童に対しては、自己肯定感がもてるように、スモールステップで目標をもたせ、その都度達成度を振り返らせる。</li> <li>・自分にあった場や、チームに見合った作戦などを選択しやすいように、場の設定や作戦等の例示を多くし、児童自ら選べるようにする。</li> </ul>           |